国宝コレクション

帯広市医師会
本庄内科クリニック
本庄　潤（ほんじょう　じゅん）

みなさんは日本に国宝がいくつあるかご存知ですか？令和７年４月１日現在、国宝は1,144件が指定されています。重要文化財が10倍以上の13,498件ですので国宝は文化財の中でもエリート中のエリートということになります。北海道に国宝は２つ。一つは函館市で発掘された中空土偶で2007年に指定。もう一つは2023年に指定された遠軽町白滝遺跡群から出土した旧石器時代の矢じりなどです。

私は小学生の頃から仏像が大好きで、当時奈良に住んでいましたので、東大寺、興福寺などの国宝に親しんできました。その頃から、「やっぱり国宝と重要文化財は違うなあ」などと思っていました。その後成長するにつれて興味が他のことに移り、しばらく国宝からは遠ざかっていたのですが、50歳を過ぎ再び国宝愛が蘇ってきました。我が家には父が買った昭和36年版「国宝事典」があり、子供の頃愛読していたのですが、2019年に40年ぶりで改訂版が発売されたのも国宝愛復活のきっかけでした。旧版で白黒だった写真がカラーになり、国宝を一つ見るたびに蛍光ペンでマークしていき、その数が増えるたびニヤニヤしています。

そのような国宝好きにとって2025年春は夢のような季節でした。というのも、大阪・関西万博に合わせて、大阪市立美術館、奈良国立博物館、京都国立博物館で国宝を多く集めた展覧会が開催されたのです。出品国宝数は大阪＞奈良＞京都で、大阪は会期中の展示品入れ替えがあったため３回行き、奈良も２回は行きたかったのですが日程が合わず泣く泣く１回のみ。京都は今まで見たことのある国宝が多かったのでパスしました。大阪では「漢委奴国王」の金印、源頼朝の肖像画、尾形光琳の「燕子花図屏風」など、誰もが教科書などで見たことのある国宝を含め130点あまり、奈良では仏像、経典など仏教関係の国宝を中心に80点あまりが展示されていました。今回、全国宝の２割弱を一気に見られたことになります。このペースで行けば国宝全クリアも近いと錯覚しますが、国宝の中には御開帳が数十年に一度のみの仏像や、基本的に一般公開されない絶対秘仏と呼ばれるものもあります。絶対秘仏を見るためにはその寺の僧侶になってある程度の地位まで昇らなければいけないと思うので、ハードルは高そうです。それよりも実はまだ北海道の２つを見ていないので、まずはそこからと思っています。

トレイルラン、走る、歩く、登る

北部檜山医師会
せたな町国保病院
中島　一貴（なかじま　かずたか）

ある時、仲間から一緒に走ろう、と誘いを受けた。それが走り始めるきっかけでした。メタボな私にはその距離は厳しいと感じた。距離も５㎞から徐々に伸ばしハーフへとステップアップ、練習の成果が少しずつ記録に反映されると、走ることへの楽しさが生まれた。もっと追求したいと思うようになり、早朝ラン、出勤ラン、正月も走り込み、のめり込んでいった。

さて初めてのフルマラソン、千歳JAL国際マラソンは満を持して出場、後半からほぼ下りだったが、筋肉痛・けいれんによる苦痛も伴いながらかろうじての完走だった。それから年３回のペースでフルマラソンに参加し完走、ある達成感を覚えた。

このころNHKで放映されたGREAT RACE、ヨーロッパアルプスを舞台に行われる、総距離約330キロ、累積標高距離約30,000m、制限時間150時間で走破する壮大なレース“トルデジアン”、ランナーたちは、水分、補給食、防寒スーツ、ライト、GPS、エイドグッズなど万全の準備をし、それらをザックに詰め込み、ポールとともに大地を力強く蹴り進んでいく、その姿を見たとき、忘れかけていた冒険心を揺さぶる感動を抱かせてくれた。すぐにトレランの虜となった。

約40キロ、大雪山系を走るレースに参加、マラソンでは味わえない感覚、稜線が続く山々の絶景を楽しみながらも走る爽快感は格別なものだった。一方でマラソン以上の苦痛を多く感じることも事実、しかし苦難を乗り越え走破した後に得られる感動を求め、以後多くのトレランレースに参加した。

60キロレースも完走、本州での約100キロの本格的なレースにエントリーした。制限時間は33時間、関門も多く、ペース配分、２～３時間の仮眠、補給食・水分の必要量など完走するための戦略を練っていたが、まさに2020年春、新型コロナ感染症、社会のすべてが、、、当然、レース大会も例外ではなく中止となり、コロナ禍へ、走ることからも遠ざかることとなった。そんな中、今後の働き方についても真剣に考えるようになった。地域医療に興味を持ち、職場環境を変えた。コロナ禍が明け、久しぶりにフルマラソンに参加、完走した。この町を囲む山々、遠くにみえる峰々はいつ見ても素晴らしい景色である。今回、数年ぶりのトレイルレースへ気持ちを昂らせ挑む。